

ヤングケアラー状況調査報告書

概要版

◆凡例

- 児童・生徒調査の各質問の選択肢は、高校生世代の調査のものとしています。
- 複数回答の場合、回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- 結果を見やすくするために、無回答の数値は省略しています。
- 区の質問項目に該当する国の調査結果を参考数値として掲載しています。
 - ・令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」
 - ・令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」

令和5年3月

ヤングケアラー状況調査の結果について（概要）

調査の趣旨

ヤングケアラーに対する包括的な支援の構築に向けて基礎資料とするため、ヤングケアラー本人や家族の状況、ヤングケアラーが行っているケアの内容や頻度等の状況調査を小学校4年生から高校生世代の子ども及び関係機関を対象に調査を行いました。

調査の概要

（１）児童・生徒調査

ア 小学生

調査対象	区立小学校の4年生から6年生	10,176人
調査期間	令和4年12月19日～令和5年1月16日	調査延長期間：令和5年2月9日～令和5年2月19日
調査方法	学校を通して調査依頼文を配布（Web調査）	
回収数・率	1,189人（11.7%）	

イ 中学生

調査対象	区立中学校の1年生から3年生	8,762人
調査期間	令和4年12月19日～令和5年1月16日	調査延長期間：令和5年2月9日～令和5年2月19日
調査方法	学校を通して調査依頼文を配布（Web調査）	
回収数・率	1,719人（19.6%）	

ウ 高校生世代

調査対象	高校1年生から3年生の年齢の区民	10,504人
調査期間	令和4年12月22日～令和5年1月16日	
調査方法	調査依頼文を郵送（Web調査）	
回収数・率	1,257人（12.0%）	

（２）関係機関調査

ア 区立小学校・中学校

調査対象	区立小学校、中学校	74校
調査期間	令和4年12月19日～令和5年1月16日	
調査方法	調査依頼文を配付（Web調査）	
回収数・率	74校（100.0%）	

イ 高齢者及び障害者に関わる区内の事業所

調査対象	高齢者及び障害者に関わる区内の事業所	354か所
調査期間	令和5年1月6日～令和5年1月30日	
調査方法	調査依頼文を郵送（Web調査）	
回収数・率	138か所（39.0%）	

ウ 民生委員・児童委員

調査対象	民生委員・児童委員	384人
調査期間	令和4年11月21日～令和4年12月6日	
調査方法	合同民生委員・児童委員協議会で配付（紙調査票）	
回収数・率	253人（65.9%）	

家族の中にお世話をしている人がいるか

家族の中にお世話をしている人がいる割合は、小学生では10.8%、中学生では11.5%、高校生世代では8.3%でした。
また、誰のお世話をしているかという問いには、すべての世代で「きょうだい」が最も多く、次いで母親、父親の順でした。

家族の中にお世話をしている人がいるか

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
いる	10.8%	6.5%	11.5%	5.7%	8.3%	4.1%
いない	82.3%	93.5%	82.0%	93.6%	87.7%	94.9%
分からない・答えたくない	7.0%	—	6.5%	—	4.0%	—

「いる」
→

誰のお世話をしているか（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
母親	29.7%	19.8%	32.3%	23.5%	40.4%	29.6%
父親	21.9%	13.2%	20.2%	—	22.1%	—
祖母	10.9%	10.3%	12.6%	14.7%	12.5%	22.5%
祖父	5.5%	5.5%	6.1%	—	2.9%	—
きょうだい	58.6%	71.0%	61.6%	61.8%	47.1%	44.3%
その他	8.6%	1.9%	4.0%	3.8%	5.8%	5.5%
分からない・答えたくない	10.2%	—	9.6%	—	8.7%	—

お世話をしている理由（複数回答）

回答	小学生	中学生	高校生世代
高齢のため ※65才以上	7.8%	7.1%	8.7%
幼いため	54.7%	50.5%	31.7%
介護が必要 ※食事や身の回りのお世話など	5.5%	5.6%	9.6%
認知症のため	0.8%	3.0%	5.8%
身体障害のため	4.7%	4.0%	10.6%
知的障害のため	2.3%	1.5%	3.8%
こころの病気のため ※そうかもしれない場合も含む	1.6%	2.5%	11.5%
依存症のため ※そうかもしれない場合も含む	0.0%	1.5%	1.9%
その他の病気やけがのため	1.6%	2.5%	3.8%
日本語が苦手なため	0.8%	6.6%	8.7%
その他	9.4%	11.1%	21.2%
分からない・答えたくない	25.8%	20.7%	14.4%

お世話をしている理由で、最も多かったのは、各世代とも「幼いため」でした。

世代が上がるにしたがい、「幼いため」の割合が減り、「介護が必要」、「認知症のため」、「身体障害のため」、「こころの病気のため」など、様々な理由で割合が増加しています。

誰とお世話をしているか

一緒にお世話をしている人は、各世代とも「母親」との回答が最も多く、次いで「父親」や「きょうだい」との回答が多いです。また、「自分のみ」と回答をした人が、各世代とも18%から19%台、存在します。

誰とお世話をしているか（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
母親	66.4%	64.2%	62.6%	58.3%	51.9%	52.1%
父親	44.5%	47.1%	47.5%	35.7%	30.8%	28.3%
祖母	8.6%	11.6%	7.1%	16.0%	1.0%	11.4%
祖父	5.5%	5.4%	2.5%	6.9%	3.8%	4.9%
きょうだい	32.8%	36.0%	36.9%	35.7%	32.7%	34.5%
親戚の人	2.3%	3.2%	2.5%	5.0%	2.9%	7.2%
自分のみ	18.0%	10.6%	18.7%	9.1%	19.2%	11.4%
福祉サービスの人 例)ヘルパー	0.0%	2.4%	1.5%	6.3%	2.9%	7.2%
その他	3.1%	0.5%	1.0%	1.9%	1.9%	1.3%
分からない・答えたくない	14.1%	—	9.6%	—	14.4%	—

どのくらいの頻度でお世話をしているのか、負担に感じていないのか

お世話の頻度は、「ほぼ毎日」や「週に3～5日」との回答が多く、日常的にお世話をしている状況がうかがえます。お世話をする負担感について聞いたところ、大変さを感じていないとの回答が各世代とも30%台で最も多くなっています。一方、「大変だけど、楽しいと感じている」と回答した人は、小学生では28.1%ですが、高校生世代では8.7%でした。また、「気持ちの面で大変」、「時間に余裕がない」は、世代が進むにつれ増加しています。

お世話する頻度

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
ほぼ毎日	34.4%	52.9%	38.4%	45.1%	40.4%	47.6%
週に3～5日	19.5%	16.0%	20.7%	17.9%	14.4%	16.9%
週に1～2日	14.1%	14.4%	16.7%	14.4%	19.2%	10.4%
1か月に数日	9.4%	5.5%	5.6%	4.7%	6.7%	6.8%
その他	7.0%	1.4%	1.5%	4.1%	3.8%	2.0%
分からない・答えたくない	15.6%	—	17.2%	—	15.4%	—

お世話をする負担感（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
体力の面で大変	11.7%	13.9%	13.1%	6.6%	12.5%	6.5%
気持ちの面で大変	15.6%	18.4%	18.2%	15.0%	31.7%	19.9%
時間の余裕がない ※もっと自分のための時間がほしい	9.4%	14.6%	14.1%	16.0%	26.9%	16.9%
特に大変さは感じていない	32.8%	57.4%	34.3%	60.5%	31.7%	52.1%
大変だけど、やりがいを感じている	13.3%	—	17.7%	—	15.4%	—
大変だけど、楽しいと感じている	28.1%	—	18.2%	—	8.7%	—
分からない・答えたくない	17.2%	—	19.7%	—	18.3%	—

お世話をするこででた影響

各世代とも「特にない」が最も多い回答でした。世代が進むにつれ、「特にない」の回答が減少し、それ以外の勉強時間や睡眠時間などへ影響する項目の回答が増えています。

お世話をするこででた影響（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
学校を休んでしまう	5.5%	2.9%	4.0%	1.6%	7.7%	1.0%
どうしても学校を遅刻・早退してしまう	6.3%	3.2%	5.1%	2.5%	3.8%	2.9%
宿題など、勉強をする時間がない	3.1%	7.8%	9.6%	16.0%	12.5%	13.0%
睡眠が十分に取れない	8.6%	6.7%	8.1%	8.5%	13.5%	11.1%
友人と遊ぶことができない	3.9%	10.1%	8.6%	8.5%	9.6%	11.4%
部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	0.0%	1.0%	0.5%	4.7%	3.8%	2.3%
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した※	0.8%	—	2.0%	4.1%	5.8%	5.5%
自分の時間がとれない	5.5%	15.1%	15.7%	20.1%	18.3%	16.6%
特にない	68.0%	63.9%	61.1%	58.0%	61.5%	52.1%
その他	2.3%	1.1%	1.0%	0.3%	1.0%	1.6%
分からない・答えたくない	13.3%	—	13.1%	—	8.7%	—

※小学生、中学生の設問は「将来や進路のことを考えられない」

悩みを相談したことがあるか

各世代とも、お世話をしている家族やお世話についての悩みを相談したことがあるのは20%程度です。相談をした相手は、各世代とも家族や友人との回答が多いです。また、相談していない理由は、「だれかに相談するほど困っていないから」が最も多くなっています。

お世話をする家族やお世話のことで相談をしたことがあるか

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
ある	20.3%	17.3%	17.2%	21.6%	20.2%	23.5%
ない	60.2%	76.1%	68.7%	67.7%	66.3%	64.2%
分からない・答えたくない	19.5%	—	13.6%	—	13.5%	—

「ある」  「ない」  次ページ

悩みを相談した相手は誰か（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
家族 ※母親、父親、祖母、祖父、きょうだい	80.8%	78.9%	61.8%	69.6%	38.1%	69.4%
親戚 ※おじ、おば など	0.0%	10.1%	5.9%	8.7%	4.8%	8.3%
友人	46.2%	40.4%	50.0%	40.6%	42.9%	47.2%
学校の先生 ※保健室の先生以外	19.2%	13.8%	23.5%	13.0%	19.0%	18.1%
保健室の先生	3.8%	5.5%	11.8%	4.3%	9.5%	4.2%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	7.7%	3.7%	14.7%	7.2%	19.0%	8.3%
病院の先生や看護師、その他病院の人	0.0%	1.8%	0.0%	1.4%	0.0%	2.8%
ヘルパーやケアマネジャーなどの福祉サービスの人	0.0%	—	0.0%	1.4%	0.0%	4.2%
区役所や保健センターの人	0.0%	—	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
近所の人	0.0%	1.8%	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%
SNSで知り合った人	0.0%	4.6%	8.8%	7.2%	9.5%	9.7%
その他	0.0%	1.8%	0.0%	1.4%	9.5%	1.4%
分からない・答えたくない	0.0%	—	5.9%	—	9.5%	—

悩みを相談しない理由は何か（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
だれかに相談するほど困っていないから	74.0%	72.7%	69.1%	74.5%	63.8%	65.0%
家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから	13.0%	—	13.2%	15.3%	24.6%	17.8%
だれに相談をするのがよいか分からないから	3.9%	4.2%	3.7%	11.1%	10.1%	7.1%
相談できる人がいないから	2.6%	4.6%	1.5%	4.6%	10.1%	9.1%
家族のことは話にくいから	6.5%	5.4%	2.9%	12.0%	17.4%	11.7%
家族のことを知られたくないから	6.5%	—	3.7%	7.9%	7.2%	9.1%
家族に対して偏見を持たれたくないから	5.2%	—	4.4%	8.3%	8.7%	11.2%
相談をしても状況が変わると思わないから	3.9%	13.3%	12.5%	24.1%	18.8%	22.8%
自分のことをかわいそうと思われたり、変に思われたりしたくないから	10.4%	—	5.1%	—	4.3%	—
その他	1.3%	4.0%	2.2%	4.6%	0.0%	4.6%
分からない・答えたくない	18.2%	—	14.7%	—	5.8%	—

悩みを聞いてくれる人が近くにいるか

国の調査で、お世話の悩みを聞いてくれる人が近くにいると回答した人は、小学生67.7%、中学生57.9%、高校生60.9%でした。葛飾区の子どもは、小学生、中学生では、国調査よりも身近で相談する人がいると回答した人が多い結果でした。また、高校生世代も国と同程度です。

お世話についての悩みを聞いてくれる人が近くにいるか

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
いる	79.2%	67.7%	71.3%	57.9%	59.4%	60.9%
いない	7.8%	21.9%	14.7%	38.4%	29.0%	36.0%
分からない・答えたくない	13.0%	—	14.0%	—	11.6%	—

学校やまわりの大人にしてもらいたいこと

学校やまわりの大人にしてもらいたいことでは、各世代とも「特にない」が最も多く、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」との回答もすべての世代で10%以上ありました。世代が進むとともに、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「家庭への経済的な支援」についての回答が概ね増えています。また、割合は低いものの、お世話の全部または一部を代わってほしいと考えている人もいます。

学校やまわりの大人にしてもらいたいこと（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
自分の今の状況について話を聞いてほしい・・・①	14.8%	11.9%	14.1%	12.9%	10.6%	16.6%
家族のお世話について相談にのってほしい・・・②	1.6%	4.6%	4.5%	3.1%	1.0%	2.9%
家族の病気や障害、お世話のことなどについて分かりやすく説明してほしい	1.6%	1.9%	1.0%	2.2%	0.0%	3.3%
自分が行っているお世話の全てをだれかに代わってほしい	3.1%	3.0%	2.5%	3.4%	6.7%	2.6%
自分が行っているお世話の一部をだれかに代わってほしい	1.6%	6.5%	2.0%	2.5%	4.8%	3.6%
自由に使える時間がほしい	11.7%	15.2%	14.6%	19.4%	13.5%	17.9%
進路や就職など将来の相談にのってほしい	7.0%	—	11.1%	16.3%	11.5%	17.3%
学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	9.4%	13.3%	22.7%	21.3%	17.3%	18.9%
家庭への経済的な支援	3.9%	5.4%	7.6%	9.4%	19.2%	14.7%
特にない	60.9%	50.9%	52.0%	45.8%	46.2%	39.7%
その他	3.9%	1.3%	0.5%	1.6%	1.0%	0.7%
分からない・答えたくない	8.6%	6.7%	10.1%	9.1%	13.5%	6.2%

①、②と回答した人



「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に、どのような相談方法が良いか質問したところ、「直接会って話したい」が各世代とも最も多い回答でした。また、世代があがるとともに、「電話」が減り、「SNS」が増加しています。高校生世代では、「直接あつて話したい」と「SNS」は同数でした。

希望する相談方法（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
直接会って話したい	68.4%	53.5%	50.0%	—	27.3%	—
電話	21.1%	19.8%	13.3%	—	0.0%	—
SNS	10.5%	19.8%	33.3%	—	27.3%	—
メール	10.5%	12.8%	13.3%	—	0.0%	—
その他	0.0%	9.3%	3.3%	—	0.0%	—
分からない・答えたくない	21.1%	—	30.0%	—	45.5%	—

※国の中学生及び高校生の調査には、調査項目がない。

ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーという言葉を知ったことがある子どもは、小学生では48.5%、中学生では42.4%、高校生世代では69.3%でした。特に高校生世代は、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した人だけでも47.3%おり、国が目指している認知度5割に近づいています。

ヤングケアラーという言葉を知っているか

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
聞いたことがあり、内容も知っている	24.1%	—	23.1%	6.3%	47.3%	5.7%
聞いたことはあるが、よく知らない	24.4%	—	19.3%	8.8%	22.0%	6.9%
聞いたことはない	49.1%	—	55.2%	84.2%	28.9%	86.8%
分からない・答えたくない	2.4%	—	2.4%	—	1.8%	—

※国の小学生の調査には、調査項目がない。

ヤングケアラーという言葉はどこで知ったか（複数回答）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
テレビや新聞、ラジオ	58.8%	—	62.8%	55.2%	68.9%	51.2%
雑誌や本	8.1%	—	10.9%	10.6%	8.7%	7.6%
SNS	12.5%	—	25.4%	22.3%	31.3%	28.2%
広告やチラシ、掲示物	18.4%	—	10.0%	10.7%	7.0%	6.7%
イベントや交流会など	1.6%	—	0.7%	0.6%	1.5%	1.0%
学校	33.1%	—	25.4%	27.8%	33.5%	32.7%
友だちや知り合いから聞いた	7.3%	—	5.6%	3.4%	5.3%	3.0%
その他	7.8%	—	3.3%	3.2%	3.8%	2.2%
分からない・答えたくない	3.8%	—	5.2%	—	3.2%	—

ヤングケアラーという言葉を知った経緯では、「テレビや新聞、ラジオ」が、各世代とも最も多い回答です。次いで「学校」で知ったと回答する人が多くいます。年齢があがるとともに「SNS」と回答する人が増え、中学生や高校生世代では、「学校」と同程度の割合でした。

※国の小学生の調査には、調査項目がない。

自分がヤングケアラーと思うか

自分はヤングケアラーにあてはまるか

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	葛飾区	国	葛飾区	国	葛飾区	国
あてはまる	2.6%	—	2.5%	1.8%	2.5%	2.3%
あてはまらない	84.9%	—	84.4%	85.0%	90.2%	80.5%
分からない・答えたくない	12.4%	—	13.1%	12.5%	7.2%	16.3%

※国の小学生の調査には、調査項目がない。

自分をヤングケアラーと認識している人は、各世代とも2%台の回答でした。国の調査では中学生が1.8%、高校生が2.3%であり、大きな差はありません。

関係機関調査

ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーという言葉は、関係機関の中では、ほぼ認識されています。特に小学校・中学校では、「言葉を知っており、意識して対応している」と回答した学校は62.2%でした。

ヤングケアラーという概念を認識しているか

回答	小学校 中学校		事業所		民生委員 児童委員		参考 国調査（割合）	
	件数（校）	割合	件数（所）	割合	件数（人）	割合	小学校	中学校
言葉を知らない	0	0.0%	3	2.2%	11	4.3%	0.4%	25.7%
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	0	0.0%	14	10.1%	47	18.6%	6.1%	15.1%
言葉は知っているが、特別な対応はしていない	28	37.8%	94	68.1%	152	60.1%	51.0%	37.9%
言葉を知っており、意識して対応している	46	62.2%	21	15.2%	37	14.6%	41.4%	20.2%

ヤングケアラーと思われる子どもがいるか

学校や事業所で関わっている家庭、民生委員・児童委員の担当地域に、ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答したのは、小学校・中学校では33.8%、事業所では2.2%、民生委員・児童委員では4.7%でした。

ヤングケアラーと思われる子どもがいるか

回答	小学校 中学校		事業所		民生委員 児童委員		参考 国調査（割合）	
	件数（校）	割合	件数（所）	割合	件数（人）	割合	小学校	中学校
いる	25	33.8%	3	2.2%	12	4.7%	34.1%	46.6%
いない	31	41.9%	127	92.0%	62	24.5%	43.3%	34.0%
わからない	18	24.3%	8	5.8%	176	69.6%	21.9%	19.4%



「いる」と回答した学校、事業所、民生委員・児童委員に、次ページの

- 「ヤングケアラーと思われる子どもがしているお世話の様子」を質問
- 「外部の支援につないだケースはあるか」を質問

ヤングケアラーと思われる子どもがしているお世話の様子

ヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した、小学校・中学校と民生委員・児童委員では、幼いきょうだいの世話や障害や病気の家族の代わりに家事をしている子どもがいるとの回答が多く見られます。事業所では、特に多い項目はありませんでした。

ヤングケアラーと思われる子どもがしているお世話の様子（複数回答）

回答	小学校 中学校		事業所		民生委員 児童委員		参考 国調査（割合）	
	件数（校）	割合	件数（所）	割合	件数（人）	割合	小学校	中学校
障害や病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	16	64.0%	2	66.7%	4	33.3%	19.1%	29.3%
家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	21	84.0%	1	33.3%	6	50.0%	79.8%	79.8%
家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている	2	8.0%	1	33.3%	0	0.0%	7.9%	10.0%
目を離せない家族の見守りや声掛けをしている	3	12.0%	2	66.7%	0	0.0%	9.0%	5.7%
家族の通訳をしている	7	28.0%	1	33.3%	2	16.7%	22.5%	23.4%
家計を支えるために、アルバイト等をしている	0	0.0%	1	33.3%	1	8.3%	—	0.6%
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	2	8.0%	1	33.3%	1	8.3%	3.4%	11.1%
病気の家族の看病をしている	6	24.0%	1	33.3%	2	16.7%	6.7%	7.1%
障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている	3	12.0%	2	66.7%	1	8.3%	4.5%	10.3%
障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	1	4.0%	2	66.7%	0	0.0%	1.1%	2.6%
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	3.4%	5.1%

外部の支援につないだケースはあるか

子ども総合センターにつないだケースがあるのは、小学校・中学校で12校、事業所、民生委員・児童委員はありませんでした。子ども総合センター以外の外部機関につないだケースがあるのは、小学校・中学校で5校、事業所で1所、民生委員・児童委員では3人です。

子ども総合センターに通告したケースがある

小学校 中学校 （校）	事業所 （所）	民生委員 児童委員 （人）
12	0	0

子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につないだケースがある

小学校 中学校 （校）	事業所 （所）	民生委員 児童委員 （人）
5	1	3

ヤングケアラー支援で必要なこと

小学校・中学校では、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が、最も多い回答でした。
 事業所、民生委員・児童委員では、「子どもが学校や身近な人に相談しやすい環境をつくること」が、最も多い回答です。

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）

小学校・中学校

回答	小学校・中学校		参考：国調査（割合）	
	件数（校）	割合	小学校	中学校
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	58	78.4%	75.0%	69.2%
教職員がヤングケアラーについて知ること	62	83.8%	84.7%	86.6%
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	40	54.1%	53.6%	51.1%
SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること	54	73.0%	64.4%	61.0%
子どもが教員に相談しやすい環境をつくること	55	74.3%	76.6%	73.9%
ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	13	17.6%	21.1%	17.1%
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	33	44.6%	44.1%	34.7%
学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	42	56.8%	55.9%	54.9%
ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	20	27.0%	26.1%	23.3%
福祉と教育の連携を進めること	6	8.1%	16.5%	19.2%
その他	2	2.7%	3.1%	3.3%
特にない	0	0.0%	0.0%	0.0%

事業所

回答	事業所	
	件数(所)	割合
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	77	55.8%
職員がヤングケアラーについて知ること	81	58.7%
地域にヤングケアラーが何人いるか把握すること	50	36.2%
子どもが学校や身近な人に相談しやすい環境をつくること	107	77.5%
ヤングケアラーについて支援者同士で検討する組織があること	43	31.2%
ヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	102	73.9%
支援者や見守る側がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	82	59.4%
ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	39	28.3%
福祉と教育の連携を進めること	23	16.7%
その他	5	3.6%
特にない	1	0.7%

民生委員・児童委員

回答	民生委員・児童委員	
	件数(人)	割合
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	141	55.7%
支援者や見守る側がヤングケアラーについて知ること	130	51.4%
地域にヤングケアラーが何人いるか把握すること	87	34.4%
子どもが学校や身近な人に相談しやすい環境をつくること	196	77.5%
ヤングケアラーについて支援者同士で検討する組織があること	68	26.9%
ヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	176	69.6%
支援者や見守る側がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	130	51.4%
ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	60	23.7%
福祉と教育の連携を進めること	56	22.1%
その他	6	2.4%
特にない	0	0.0%